

⑤ イの検討例

意思の
表明

板書をノートに書き写さなきゃ！でも、書くのは苦手だな。

背景
実態把握

Aさんの場合（小3：通常の学級）

・読み書きを含む学習全般に苦手意識を持っており、板書の文字数が多くなると、書き写すのを止めてしまうことがある。

Bさんの場合（小3：通常の学級、通級指導教室を利用）

・学習の理解が速く、知識も豊富であるが、気持ちの変動が激しい。特に書くことへの苦手意識が強く、気持ちが不安定になりやすい。

Cさんの場合（小3：通常の学級）

・手指に軽度のまひがあり、医療機関（作業療法士）でリハビリを受けている。書字はできるが時間がかかる。また、視覚認知力の弱さから、漢字の習得が困難である。

学校の
基礎的
環境整備

- ・自閉症・情緒障害の特別支援学級の担任が特別支援教育コーディネーターを担当している。基(2)
- ・校内に通級指導教室が設置されている。基(2)
- ・必要な児童に個別的教育支援計画と個別の指導計画を作成している。基(3)
- ・電子黒板と実物投影機が各教室にある。基(4)
- ・特別支援教育支援員がいる。基(6)

検討
決定
提供

メンバー 本人・保護者・学級担任・特別支援教育コーディネーター・特別支援教育支援員で相談・協議

メンバー 本人・保護者・学級担任・特別支援教育コーディネーター・通級指導教室担当者で相談・協議

メンバー 本人・保護者・学級担任・特別支援教育コーディネーター・特別支援教育支援員・リハビリ担当の作業療法士で相談・協議

合理的配慮の内容

- ・ノートの升目を本人が書きやすい大きさに拡大する。①-1-2
- ・書字の負担を軽減するために、あらかじめ板書内容が書かれているワークシートを活用させる。①-1-2
- ・本人に達成感を味わわせるために、書き写す部分を限定して明示する。①-2-3
- ・特別支援教育支援員が、書き写す板書の内容を読み上げる。①-2-1

合理的配慮の内容

- ・クールダウンの部屋を設置する。③-2
- ・気持ちや行動をコントロールする方法を個別で指導する。①-1-2
- ・書字の困難さを改善するために、手指の運動を行う。①-2-2
- ・個人のタブレット端末で板書を記録し、家庭でノートに書き写すことを認める。①-1-1
- ・書くことに対する抵抗が強いため、新出漢字の学習の際は、個人のタブレット端末の使用を認める。①-2-1

合理的配慮の内容

- ・握りやすい鉛筆やコンパス、視覚認知が弱い人が読み取りやすい分度器など、本人の実態に応じた文房具を使用する。①-2-1
- ・書字の負担を軽減するために、あらかじめ板書内容が書かれているワークシートを活用させる。①-1-2
- ・漢字の形を言葉にしながら書くことで、形を正しく捉えられるように促す。①-1-1
- ・平仮名で書き写すことを認める。①-1-1、①-2-3

板書をノートに写すことができるようになったよ！

評価
見直し

- ・ワークシート等の活用により、書き終えることができないことへの不安感が軽減された。
- ・学年が上がるにつれ、学習内容が難しくなる。特別な学びの場の利用を検討する必要がある。

- ・タブレット端末を用いることで、書くことに対する苦手意識は少なくなってきた。
- ・タブレット端末の使用について、周囲の児童から不満の声が聞かれたため、理解啓発を行う。

- ・認知特性に応じた支援を行うことで、漢字の習得に効果が見られた。
- ・テストでの時間延長や平仮名での解答を認めること等の必要性についても検討を行う。